

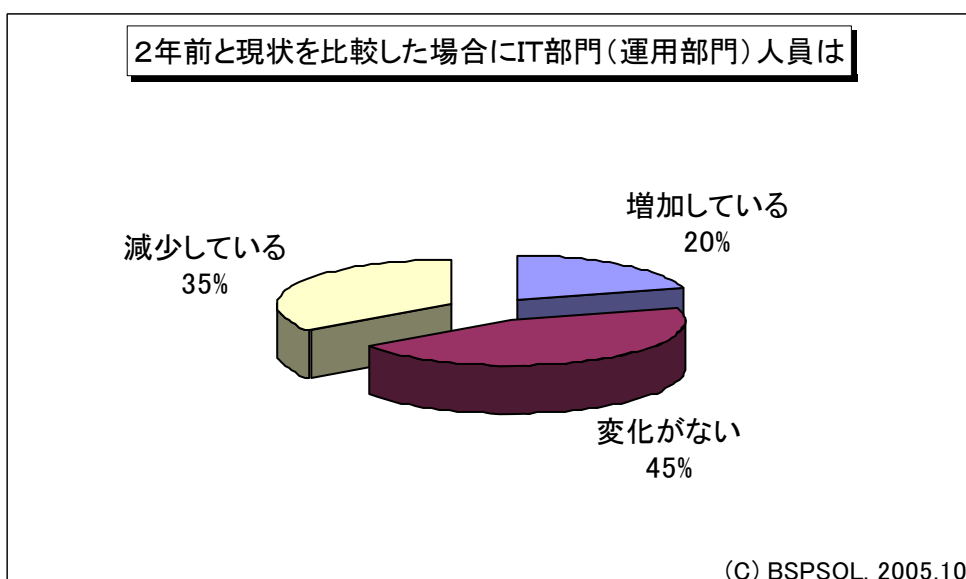
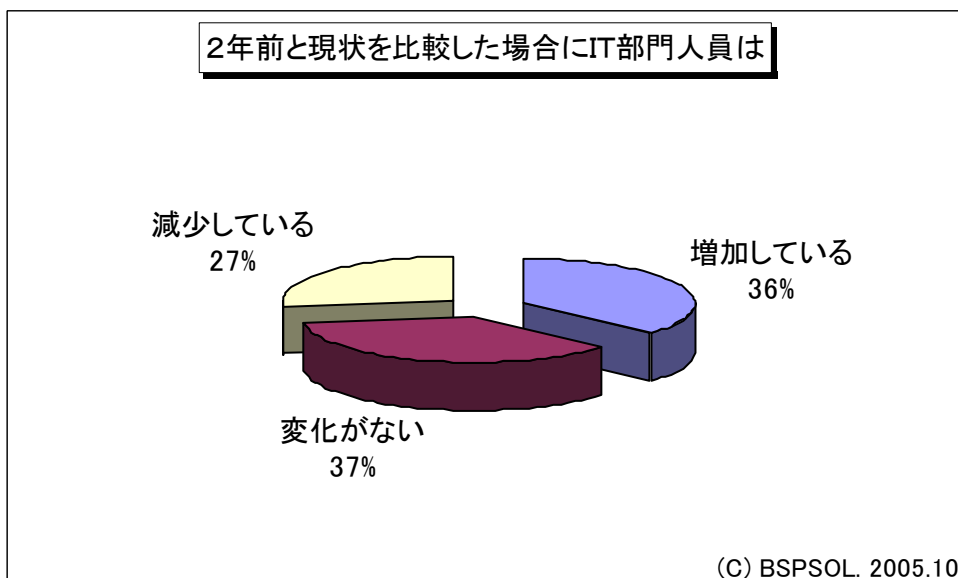
IT部門の人員規模・変化

① IT部門人員規模と変化

	IT総人員1社あたりの平均	運用人員1社あたりの平均	外注比率
製造業	116名	30名	45%
流通・サービス業	98名	35名	48%
金融・証券・保険業	297名	39名	39%
IT関連業	441名	146名	29%

（上記数値データは外部の協力会社の人員も含みます）

人員数に関しては詳細な情報開示は割愛させていただきますが、一社あたりの平均人員は上記のようになります。



人員が増加している理由

- サーバ増強による人員増加
- ホストからオープン系へのダウンサイジング
- オープン化シフトによる作業対象の増加
- 業務増、サーバ系は手間がかかる為
- SOX対応、個人情報保護法対応、ITガバナンス強化などによる人員強化
- 部門に分散していたIT系の運用を1箇所に集中
- 大手ベンダーに委託していた運用業務を内部で遂行
- 以前から人手が不足しており、充当が必要だった為
- システムの入れ替えを行っている為
- ビジネス拡大や業務範囲の拡大により開発部門は増えたが、運用部門は減少
- 企業の統合及びシステム規模の増大
- 企業規模の拡大
- 新規業務受託の為

人員が減少している理由

- ダウンサイジングによる要員削減
- 外注化を促進
- 自動化の推進
- ホストからサーバ系に移り、監視業務になってきたため。IOオペレーション（プリント業務、MTオペレーション）の減少。
- コスト削減および適任者がいない。
- 企業努力
- コスト減、効率化
- ホストコンピューター運用が減少にある。
- 担当社退社後の増員がないため

その他のコメント

- 運用部門が効率化を積極的に取り組んでいるため業務量が増えても人数の変化がない